

課題

情報を引用して書くことが苦手

手立て

「文章を正しく理解する」活動と「条件に適した表現をする」活動の充実

具体例

POINT① 文章を正しく理解する

- ◎文章（本文そのものや資料の内容）だけではなく、問題文（問われていることや課題の趣旨）も正しく理解する。
- キーワードのみを拾うのではなく、言葉の係り受けなど文のつくり注目して丁寧に読む。
- 情報を正しく理解する視点をもつ。

※文章を丁寧に読む方法

- ・言葉相互の関係を、自分なりに図式化して情報を整理する。
- ・文章を短く要約したり、簡潔に他者に説明したりする（アウトプットする場を設定する）。

POINT② 条件をふまえ、考えの根拠が明確になる言葉を用いて作文を書く

- 自分の考えと根拠を分けて表現する
- 考えの根拠が明確になる言葉の運用を目指して、系統的に語彙を広げる
 - ・事実を伝える… ～が明らかになりました ～がわかります ～に及びます
 - ・定義づける表現… このことから～と言えます ～を～といいます
 - ・比較する… ～と比べると、～がわかります ～は～の割合が多いです
 - ・情報を関係づけて考えたり説明したりする… ～に着目すると ～から ～では ～には
 - ・根拠を引用した説明や理由を述べる… なぜ～かという それは なぜならば ～が示されています
 - ・引用する… ～によると ～が発表した調査では 【 】には「 」とあります
 - ・例を挙げる… 例えば 一例として
 - ・自分の考えを伝える… ～と考えられます ～にちがひありません ～が疑われます ～でしょう ～ということが出来ます ～と推定されます

POINT③ 教科等横断的な学習の視点から、各教科・領域でも連携させて取り組む

- 各教科の教科書の文章を正しく理解できるように、国語科の学びを連携させて指導する
 - 資料や文章、グラフや表を引用し、自分の考えを形成する活動を連携させて指導する
- 【 各教科・領域で想定される場面 】
- ・総合的な学習の時間における探究活動
 - ・理科における観察、実験結果をまとめた後の考察
 - ・社会科における課題解決型学習（中学校）
 - ・数学科における根拠を基にした説明
 - ・保健体育科や技術・家庭科における調べ学習
 - ・美術科や音楽科における鑑賞活動